

こんにちは

会社訪問記

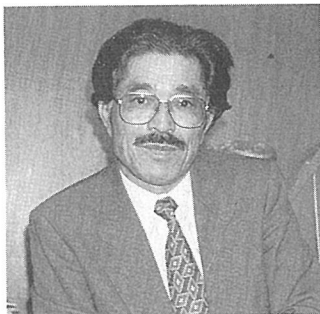
株式会社東伸サービス

(愛知県日進町)

パイオニア精神を忘れず
常に技術革新をめざして

昭和42年にガソリンスタンドの洗車汚い処理から出発し、昭和48年に株式会社に改組。以来、収集・運搬から中間処分、埋立処分にいたるまでトータルに産業廃棄物に携わる。平成2年8月にはコンクリート固化の新型プラントを完成させ、廃棄物の減量化・再生利用、適正処理に一石を投じ、その動向に関心が高まっている株式会社東伸サービスの中野弘道社長にお話を伺いました。

『当社のモットーは“ゴミ処理サービスのプロであれ”です。当社が処理した後は、チリひとつ残っていないといわれるような仕事をめざしています。今年の4月より本格稼働するハーマシール工法もこのモットーを実現すべく開発した技術で、廃棄物の減量化・再生利用、さらには適正処理を可能にする画期的な工法です。最終処分地の確保は今後極めて難しくなり、廃棄物が地方へ流出することが予想されます。悪臭粉じんや運搬車の通行・振動に対する地域住民からの苦情、処分場の撤去・設置反対等がますます大きくなることでしょう。また、処分場開発のためにはクリアーしなければならない法規制が山積みされています。社会的にも環境的にも受け入れられる安全な施設の登場が最も望まれていました。そこで、当社は地球環境を視野に入れた管理対策を進め、汚水による地下水汚染、土壌汚染、公共水域への汚染などの二次公害を完全に防止し、社会的にも受け入れられる中間処理技術“ハーマシール工法(特許申請中)”を開発したわけです』



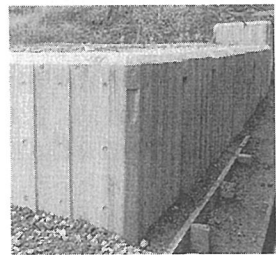
中野社長



社名/株式会社東伸サービス 所在地/愛知県愛知郡日進町大字浅田字平字4-622
代表者/中野弘道 設立/昭和48年 従業員数/18名 TEL/052(801)0775
モットー/「ゴミ処理サービスのプロであれ」 保有車両/8台
事務所/本社日進町、日進工場、小牧工場 営業種別 収集・運搬、中間処分、埋立処分
取扱い品目/燃えがら、汚泥、廃油、廃アルカリ、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、感染性医療廃棄物、有害汚泥(トリクロエチレン、テトラクロエチレンを含む)

——もう少し具体的に説明していただけますか。
『ハーマシール工法とは、乗用車及びトラックの車体部品成型要金型素材として利用できる驚異的な強度を有するコンクリート製造技術を応用した廃棄物処理システムです。廃棄物を特殊な袋に入れて100tのプレスで圧縮し固化します。同時に減量化も達成できるので、通常の2～3倍の廃棄物が処理できるのがメリットです。その袋を密封し、中の空気を抜き真空状態にして封鎖。そしてコンクリートで一体成型をして完成です。廃棄物とコンクリートの接触がないため、コンクリートの腐食がない。また、廃棄物を真空状態にしてあるので、さまざまな化学反応も起こさない。さらに、コンクリートの圧縮強度は1cm当たり1200kg～1300kgとこれまでになく密度が高く外からの衝撃にも強いのです。

例えば、国の提唱する管理型処分場は、ガス抜き、汚水の永久処理、隣地・跡地管理などの問題があるが、ハーマシール工法の場合、廃棄物を真空密封してあるから、ガスや地下水汚染の心配もない。PCBもダイオキシンもこの工法であれば処理ができる。また、ハーマシール自体がリサイクル商品になり、隣地・跡地問題にも対処可能です。いわば、1m角のハーマシール1個1個が既に“管理型”なんだ。つまり、半永久的な保存が可能なんです。これからは中間処理施設がますます重要になるでしょう。継続性のある技術こそ大切ですよ』と熱心に語っていただいた中野社長。やさしげな容姿の中に、挑戦し続ける『求道者』を見たような気がします。



ハーマシール